

本棚 ぶらり

テーマ 漫画



『少年ジャンプ』黄金のキセキ』

ごとうひろき
後藤広喜／著

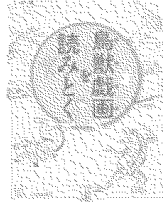
ホーム社 2018年



『鳥獣戯画を読みとく』

こみらみひこ
五味文彦／監修

岩崎書店 2017年



日本の漫画文化の源流ともいわれる『鳥獣戯画』は、まるで人間のような仕草をするウサギやカエルなどの動物の絵でよく知られています。しかし、これは4巻ある絵巻物の一つの巻だけの内容で、他の3巻には別の題材が描かれていることを、ご存じでしょうか。

この本は、『鳥獣戯画』（正式な名称は『鳥獣人物戯画』）の内容や描かれた時代背景などを、豊富なカラー写真を用いて、やさしく解説しています。主として小学生向けの児童書ですが、『鳥獣戯画』について基本的なことから知りたい大人にも、十分に役に立ちます。

数百年前から伝わる文化遺産の楽しさ、素晴らしさを、わかりやすく学ぶことができます。

『親友が語る 手塚治虫の少年時代』

たうら のりこ こうさかみあき
田浦紀子・高坂史章／編著

和泉書院 2017年



手塚治虫が平成元（1989）年に亡くなった後、多くの作家たちによって評伝が書かれ、世に広まった「手塚治虫伝説」。しかし、手塚の少年時代を身近に見てきた弟妹、幼なじみ、小学校や旧制中学校の同級生らの証言からは、そんな伝説とは少し違った、知られざる一面が浮かび上がってくる。

手塚の研究活動を行なっている編著者が、そうした人々の講演記録などをまとめたものが本書だ。

後の手塚漫画に登場するキャラクターの原型が生み出された経緯など、多くのエピソードを通して、等身大の手塚の姿が語られる。

今年で没後30年を迎えた手塚治虫の真実の姿を垣間見ることができるのは、実に意義深い。

平成30（2018）年7月に創刊50周年を迎えた『少年ジャンプ』。平成6（1994）年には発行部数最高となる653万部を記録し、ギネスブックにも認定された。

週刊少年漫画誌としては後発だった『少年ジャンプ』に、どのような新人漫画家や漫画作品が登場し、いかにして人気を集めていったのか。『少年ジャンプ』の編集方針として知られる「友情」「努力」「勝利」、これらを根底として描かれた多くの「戦いのドラマ」とは。

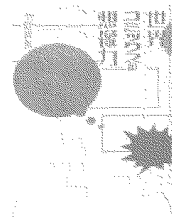
入社してすぐ『少年ジャンプ』編集部配属され、昭和61（1986）年から平成5（1993）年まで編集長を務めた筆者が、編集者の視点から代表的な連載漫画を解説し、『少年ジャンプ』の歴史を紐解いていく。

漫画家・漫画作品が社会の影響を受け、もしくは社会に影響を与えながら変化していく様も興味深く、『少年ジャンプ』を知らなくても楽しめる一冊だ。

『世界コミックスの想像力 —グラフィック・ノベルの冒険—』

おの こうせい
小野耕世／著

青土社 2011年



国内外のマンガの評論・研究で知られ、自ら海外マンガの翻訳も手掛けている小野耕世氏が、『ポパイ』のような古典的作品から21世紀初頭の話作まで、世界の物語マンガ16作品を紹介する。

各章とも、小野氏の博識と幅広い交友関係に裏打ちされて縦横無尽に話題が展開し、海外のマンガに予備知識のない読者をも惹きつける。たとえば、とあるフランスのマンガについての章を読み進めると、いつしか、若き日の藤子不二雄コンビが描いたSFマンガのある特徴にまで話が及んでいく……。

小野氏は、〈グラフィック・ノベル〉という新しいことばを用いて、世界の物語マンガが国籍を超えて影響しあう姿を伝えようと試みている。その広がり、深まりを、この本から感じ取ってほしい。